

今日の 話題

日中往来の現状

長引くコロナ禍により日中間の往来は厳しい制限が続いている。そこで最近日本に一時帰国した駐在員にその現状をインタビューした。

北京駐在員 A 氏の場合：昨年 12 月、日本に帰任。北京と日本の直行便がないため、青島・大連等に移動・経由する必要があった。しかしオリンピック規制が高まりつつあり、中国国内移動で隔離されるリスクを回避すべく北京—香港経由—成田という離れ業で帰国。しかもチケット代が 6 万円程度と最近の相場からみて格安であったが、香港で一晩過ごさなければならない苦労はあった。なお日本から香港経由で中国に行くことは、日港両国で陰性証明が必要となるため現実的に不可。また当時は日本帰国便の予約停止報道（その後撤回したが）がありハラハラし

た。14 日間自宅待機後本社に出勤。

蘇州駐在員 B 氏の場合：春節休暇のため上海浦東—関空便で半年ぶりに日本に帰国。帰国には①中国の健康アプリ（浦東空港に入るのに必要）、②陰性証明を登録する日本のアプリ、③自宅隔離を観察する日本のアプリの三つが必要。PCR 検査は無事陰性であったが、中国健康アプリが黄色（知らぬうちに接触してしまった等）になると浦東空港に入れないリスクがあり、最後まで気が抜けない。また空港でも陰性証明やアプリの確認などに時間がかかり、チェックインに 2 時間くらいかかった。なお今回日本でワクチン 2 回を打つ予定のため（諸事情により中国ワクチンは未接種）、GW 頃に蘇州に戻るつもりであるが、中国のホテルでの 2 週間隔離が辛く今から既に憂鬱な気分。但し今回日本の待機が 7 日に短縮されたことが唯一の福音。チケットは吉祥航空で片道 22 万円と高額だが、前回の 30 万円よりは多少マシ。また関空—自宅（愛媛）まで自家用車移動（公共交通機関はダメ）も必要と金銭負担が大きい。日本入国後の待機緩和が叫ばれているが、まだまだ厳しい状況である。（金本勲相 BP アジアコンサルティング代表・公認会計士）